

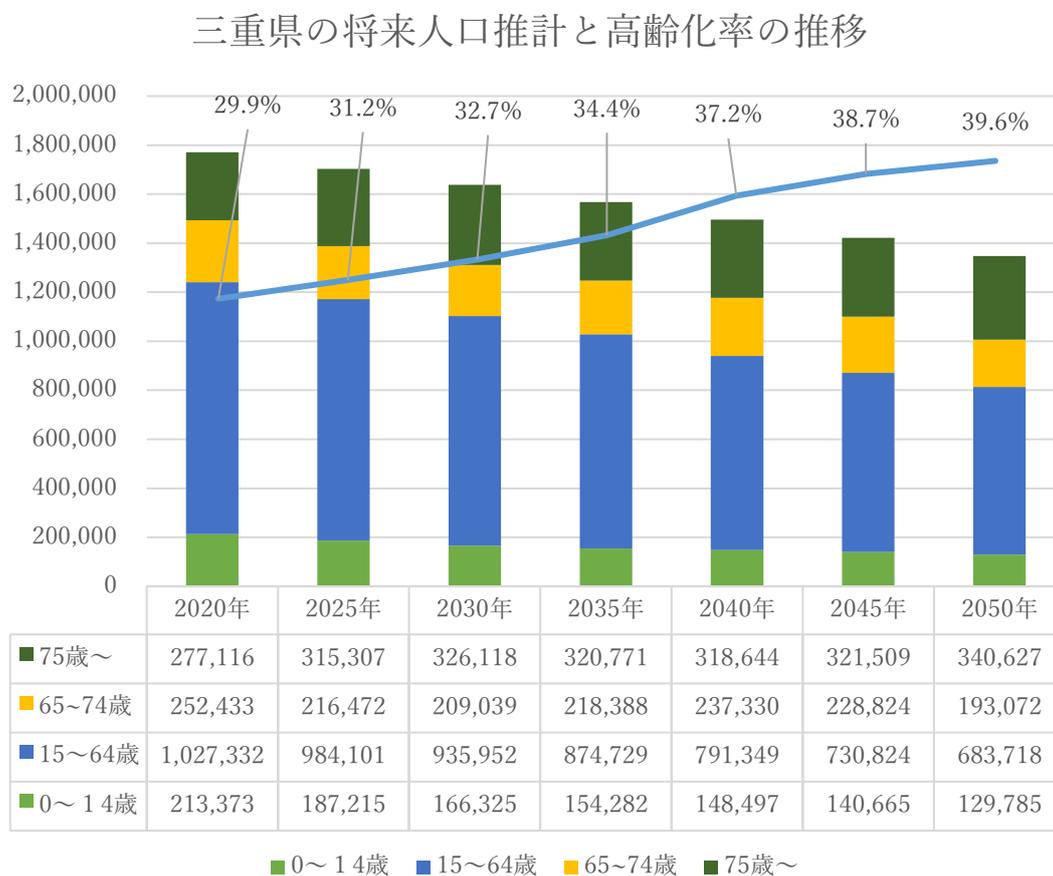
## 第2章

# 認知症高齢者の現状と将来推計

## 1 高齢者数と高齢化率の推移

- 日本の総人口は、令和6（2024）年10月1日現在、1億2,380万人となっています。65歳以上人口は、3,624万人となり、総人口に占める割合（高齢化率）は29.3%となりました。（令和7年版 高齢社会白書より）
- 本県の人口は、平成17（2005）年の1,866,963人をピークに、それ以降減少しており、令和6（2024）年10月1日現在の本県の人口は1,711,370人で、前年に比べ16,133人（0.93%）減少しました。また、令和12（2030）年には1,637,434人となり、さらに令和22（2040）年には1,495,820人まで減少すると見込まれています。
- このうち65歳以上人口は519,883人で、65歳以上人口の割合は30.4%になります。また、令和12（2030）年には535,157人（32.7%）、さらに令和22（2040）年には555,974人（37.2%）に達すると見込まれています。
- 介護等の支援が必要となる割合が増す75歳以上人口は、令和6（2024）年に300,228人（16.5%）であったのが、令和12（2030）年には326,118人（19.9%）で、令和22（2040）年には318,644人（21.3%）に達すると見込まれています。

図 2-1 三重県の将来人口推計と高齢化率の推移



出典：総務省「国勢調査」（2020年）

国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5年12月推計）」  
（2025年～）を用いて三重県で作成

## 2 認知症高齢者の将来推計

- 認知症とは、病気などいろいろな原因で脳の細胞が死んでしまったり、働きが悪くなったりすることによって、日常生活に支障が生じる症状の総称です。
- 本県における認知症高齢者数は令和 7（2025）年に 68,599 人と推計されていますが、今後も高齢化に伴い増加し続け、令和 12（2030）年には 75,992 人、令和 22（2040）年には 82,840 人になると見込まれています。
- MCI（Mild Cognitive Impairment：軽度認知障害）とは、認知症と完全に診断される一歩手前の状態です。放っておくと認知症に進行しますが、適切な予防をすることで健常な状態に戻る可能性があります。
- 本県における軽度認知障害者数は令和 7（2025）年に 81,894 人と推計されていますが、今後も高齢化に伴い増加し続け、令和 12（2030）年には 85,625 人、令和 22（2040）年には 86,732 人になると見込まれています。

図 2-2 65歳以上人口における認知症およびMCI（軽度認知障害）患者数と有病率の推移

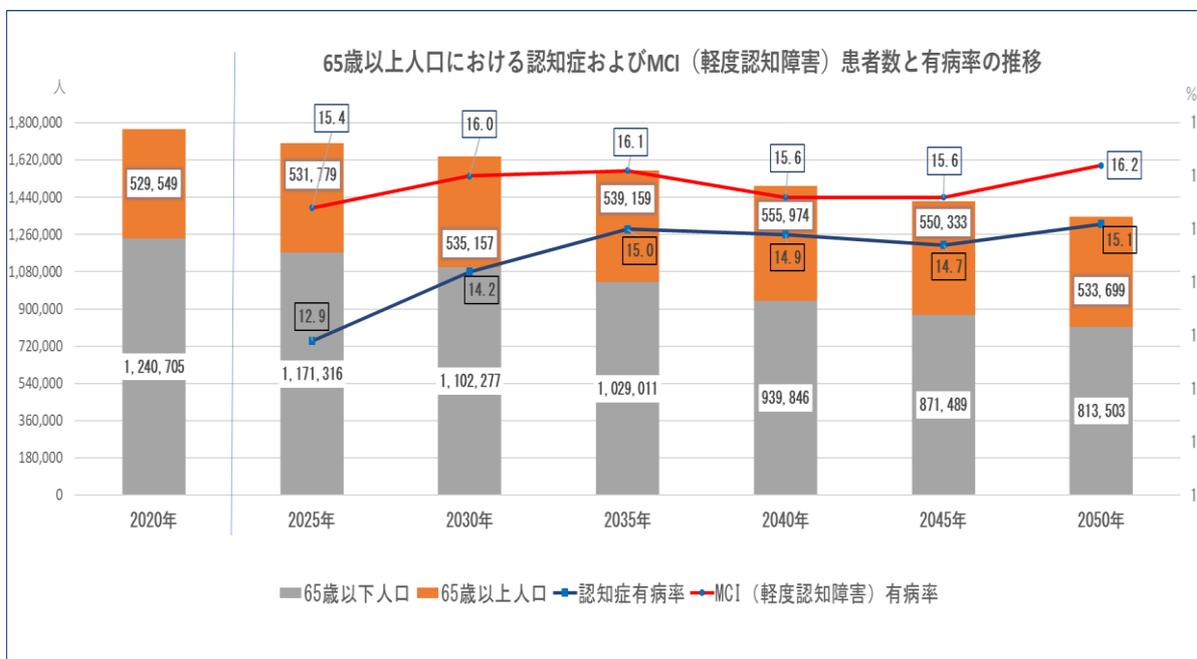


図 2-3 65歳以上人口における認知症およびMCI（軽度認知障害）患者数および有病率の推移

年	三重県総人口 (推計人口) (人)	65歳以上人口 (人)	認知症患者数 (人)	MCI (軽度認知障害) 患者数 (人)	認知症 有病率 (%)	MCI (軽度認知障害) 有病率 (%)
令和2 (2020) 年	1,770,254	529,549				
令和7 (2025) 年	1,703,095	531,779	68,599	81,894	12.9	15.4
令和12 (2030) 年	1,637,434	535,157	75,992	85,625	14.2	16.0
令和17 (2035) 年	1,568,170	539,159	80,874	86,805	15.0	16.1
令和22 (2040) 年	1,495,820	555,974	82,840	86,732	14.9	15.6
令和27 (2045) 年	1,421,822	550,333	80,899	85,852	14.7	15.6
令和32 (2050) 年	1,347,202	533,699	80,589	86,459	15.1	16.2

※「日本における認知症の高齢者人口の将来推計に関する研究」（令和5年度老人保健事業推進費等補助金特別研究事業 九州大学二宮利治教授）速報値により算出

※三重県数値は、将来推計人口（65歳以上）に上記有病率を乗じた数値

